

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期、2期	今田正人	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学③		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

ヒトは身体の内部や外部の環境情報を、感覚器系を介して受容し、神経系によって伝達・処理を行い、生体として反応している。このような神経・感覚器による全身の統合調節機構を形態学の面から学び理解する。

各自が資格試験を意識して、自身の知識を体系化し、自学自修していく方法や力を身につける。

## 【講義概要】

1. 神経系の構造と機能について理解し、各区分の名称やつながりを説明できる。
2. 感覚器の構造と機能について理解し、各部位の名称やつながりを説明できる。
3. 第2期後半からは演習問題を解きながら、1年生から学んできた解剖学的知識を復習し整理していく。

## 【成績評価方法】

定期試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。

不合格の場合、再追試験を行う。

最終成績は第1期と第2期の成績を平均する。

## 【授業の特徴・形式】

講義形式で行うので、講義に出席して、各項目の基礎知識を学ぶ。

予習では講義範囲を通読する。復習では講義内容の理解に努める。

各自が学習した知識を体系化し、形態と機能を考えながら、資格試験に応用できるようになることを目指す。

第2期の後半からは、第1章から順に演習問題を解きながら、各自が有する解剖学的知識を再確認し復習を進める。

定期試験や演習問題は資格試験に準拠した多枝選択問題で行う。

## 【教科書・参考書】

教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	神経系の基礎1(神経系の区分、神経組織) p217～220	講義
2	神経系の基礎2(中枢神経系の区分、脳室系、髄膜) p220～223	講義
3	脳の形態と機能1(終脳) p223～225	講義
4	脳の形態と機能2(終脳・間脳) p226～227	講義
5	脳の形態と機能3(中脳・橋) p227～228	講義
6	脳の形態と機能4(橋・小脳) p228～230	講義
7	脳の形態と機能5(延髄) p228～229	講義
8	脊髄1(区分、内部構造、反射路) p230～233	講義
9	脊髄2(上行性・下行性伝導路) p233～238	講義
10	脳神経1(嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経) p239～242	講義
11	脳神経2(三叉神経、顔面神経、内耳神経) p241～243	講義
12	脳神経3(舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経) p243～245	講義
13	自律神経1(総論、副交感神経系) p256～259	講義
14	自律神経2(交感神経系) p256～259	講義
15	第1期試験の解説	講義
16	脊髄神経1(総論、頸神経叢) p245～247	講義
17	脊髄神経2(腕神経叢) p247～250	講義
18	脊髄神経3(肋間神経、腰神経叢) p250～252	講義
19	脊髄神経4(仙骨神経叢、陰部神経叢) p252～256	講義
20	感覚器1(外皮、筋紡錘など) p261～265	講義
21	感覚器2(視覚器) p265～270	講義
22	感覚器3(平衡・聴覚器、味覚器、嗅覚器) p270～274	講義
23	人体解剖学概説(細胞、組織、発生、人体区分) p1～16	講義
24	運動系1(上肢・体幹の骨格系・関節) p21～46	講義
25	運動系2(下肢・頭蓋の骨格系・関節) p46～70	講義
26	内蔵系1(消化器) p157～177	講義
27	脈管系1(総論、心臓、動脈系) p123～145	講義
28	脈管系2(静脈系、胎児循環、リンパ系) p145～156	講義
29	映像解剖 p297～304	講義
30	第2期試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部;午後
開講年度	履修課程	今田正人	
2024年度	2年生 第3期		
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学④		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

各器官系の知識を整理し、人体への理解を深める。  
各自が有する解剖学的知識を再確認する。  
自身の有する知識を資格試験に応用する考え方を身につける。

## 【講義概要】

項目毎に、演習問題とその解説を行うことで知識の整理と復習を行っていく。

## 【成績評価方法】

定期試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。  
不合格の場合、再追試験を行う。

## 【授業の特徴・形式】

講義形式で行うので、毎回講義に出席して、各項目の基礎知識を復習する。  
予習では講義範囲を通読する。復習では講義内容の理解に努める。  
各自が学習した知識を体系化し、項目毎に形態と機能をまとめる。  
第2期の後半から行ってきた復習の残りを順に演習問題を解きながら、進める。  
定期試験や演習問題は資格試験に準拠した多枝選択問題で行う。

## 【教科書・参考書】

教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	内蔵系2(呼吸器) p177～186	講義
2	運動系3(頭頸部・腹部・背部・上肢の筋系) p70～97	講義
3	運動系4(上肢・下肢の筋系) p97～122	講義
4	内蔵系3(泌尿器) p186～192	講義
5	内分泌系 p207～215	講義
6	内蔵系4(生殖器) p192～205	講義
7	体表解剖 p17～20 p275～296	講義
8	第3期試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講過程	開校学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開校年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期、2期	越川, 小林	
講義区分	授業科目名		
専門分野	生理学(2)	2単位	60時間

<b>【授業の到達目標およびテーマ】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・人体の機能を動物機能と植物機能に分けて説明できる。</li><li>・人体の植物機能に関する臓器を説明できる。</li><li>・臓器を構成する細胞の特徴と機能を説明できる。</li><li>・植物機能による恒常性の維持機構について説明できる。</li></ul>
<b>【講義概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・講義は、教科書を中心にまとめたレジュメに沿って行う。</li><li>・講義の後半は、国家試験向けの演習問題を配付し、演習を行う。</li></ul>
<b>【成績評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・定期試験で判定する。</li><li>・60点以上（100点満点換算）を合格とする。</li></ul>
<b>【授業の特徴・形式】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・講義は、教科書を中心にまとめた書き込み式レジュメに沿って行う。</li><li>・講義の後半には、国家試験問題あるいは類似問題を解き、解説を聞くことによって、重要事項の把握と理解に努める。</li><li>・質問は随時メールでも対面でも受け付けるので、積極的に講義に参加すること。</li></ul>
<b>【教科書・参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・生理学(南江堂)改訂第4版 彼末一之</li></ul>

【 講義の内容・日程 】			
回	実施日	講義内容	備考
1	4/12 金	6 内分泌 復習	
2	4/19 金	7 生殖 A 性分化-B 男性生殖器	
3	4/26 金	C 女性生殖器-D 妊娠と分娩	
4	5/10 金	3 神経の生理 A 神経信号の伝達①神経系の構成要素-②静止膜電位・活動電位	
5	5/17 金	A 神経信号の伝達③活動電位の伝導-⑤神経伝達物質と受容体	
6	5/24 金	B 神経系の構成-C 脳の高次機能③連合野の統合機能	
7	5/31 金	C 脳の高次機能④睡眠と覚醒-⑥学習と記憶	
8	6/7 金	D 内臓機能の調節①自律神経とは-③自律神経系の構成	
9	6/14 金	D 内臓機能の調節④自律神経系による調節-⑤反射のレベル	
10	6/21 金	まとめ	
11	6/28 金	2 筋の生理 A 骨格筋①骨格筋の構造-②骨格筋の収縮と弛緩	
12	7/5 金	A 骨格筋②骨格筋の収縮と弛緩-③骨格筋と張力の関係	
13	7/12 金	A 骨格筋④筋電図-C 平滑筋	
14	7/19 金	まとめ	
15		定期試験	
15	8/2 金	試験解説	
		再試験	
16	8/30 金	4 運動の生理 A 運動の調節①運動に関係する主な中枢神経-B 運動神経と運動単位①運動ニューロンと筋の接続	
17	9/6 金	B 運動神経と運動単位②力の調節-C 脊髄による反射とその調節①受容器	
18	9/13 金	C 脊髄による反射とその調節②伸張反射と $\gamma$ 系	
19	9/20 金	C 脊髄による反射とその調節③誘発筋電図-D 脳幹による運動調節①姿勢反射	
20	9/27 金	D 脳幹による運動調節②歩行-E 高次運動機能⑤運動関連脳部位間の接続	
21	10/4 金	まとめ	
22	10/11 金	5 感覚の生理 A 感覚の一般的な特性①感覚の分類-③感覚の順応	
23	10/18 金	B 特殊感覚①視覚	
24	10/25 金	B 特殊感覚②聴覚-③平衡感覚	
25	11/1 金	B 特殊感覚④味覚-⑤嗅覚	
26	11/8 金	C 体性感覚-E 痛覚	
27	11/15 金	まとめ	
28	11/22 金	9 骨の生理 A 骨の構造-B 骨の成長	
29	11/29 金	まとめ	
		定期試験	
30	12/13 金	試験解説	

# 東京柔道整復専門学校

開講過程	開校学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開校年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第3期	越川, 小林	
講義区分	授業科目名		
専門分野	競技者の生理		1 単位 15 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技者や高齢者の生理的特徴を説明できる。</li> </ul>																																											
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は、教科書を中心にまとめたレジュメに沿って行う。</li> <li>・講義の後半は、国家試験向けの演習問題を配付し、演習を行う。</li> </ul>																																											
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験で判定する。</li> <li>・60点以上（100点満点換算）を合格とする。</li> </ul>																																											
<p><b>【授業の特徴・形式】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は、教科書を中心にまとめた書き込み式レジュメに沿って行う。</li> <li>・講義の後半には、国家試験問題あるいは類似問題を解き、解説を聞くことによって、重要事項の把握と理解に努める。</li> <li>・質問は随時メールでも対面でも受け付けるので、積極的に講義に参加すること。</li> </ul>																																											
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生理学(南江堂)改訂第4版 彼末一之</li> </ul>																																											
<p><b>【 講義の内容・日程 】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>実施日</th> <th>講義内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1/6 月</td> <td>1 6 高齢者の生理 A 細胞・組織の加齢現象</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1/20 月</td> <td>B 高齢者の生理的特徴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1/27 月</td> <td>C 運動と加齢</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2/3 月</td> <td>1 7 競技者の生理 A 成長に伴うからだや運動能力の発達</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2/10 月</td> <td>B 競技者の生理学的特徴・変化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2/17 月</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>定期試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3/3 月</td> <td>試験解説</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3/10 月</td> <td>総括演習</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	実施日	講義内容	備考	1	1/6 月	1 6 高齢者の生理 A 細胞・組織の加齢現象		2	1/20 月	B 高齢者の生理的特徴		3	1/27 月	C 運動と加齢		4	2/3 月	1 7 競技者の生理 A 成長に伴うからだや運動能力の発達		5	2/10 月	B 競技者の生理学的特徴・変化		6	2/17 月	まとめ				定期試験		7	3/3 月	試験解説		8	3/10 月	総括演習	
回	実施日	講義内容	備考																																								
1	1/6 月	1 6 高齢者の生理 A 細胞・組織の加齢現象																																									
2	1/20 月	B 高齢者の生理的特徴																																									
3	1/27 月	C 運動と加齢																																									
4	2/3 月	1 7 競技者の生理 A 成長に伴うからだや運動能力の発達																																									
5	2/10 月	B 競技者の生理学的特徴・変化																																									
6	2/17 月	まとめ																																									
		定期試験																																									
7	3/3 月	試験解説																																									
8	3/10 月	総括演習																																									

# 東京柔道整復専門学校

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期、2期	小堀 孝浩	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	運動学		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

これまで学んできた解剖学や生理学等の知識を土台に、身体の運動の仕組みや機能の理解を深める。そして、臨床現場でも応用できる能力を身につけていく。

## 【講義概要】

授業は運動学の基礎を学び、運動に関わる身体の機能や構造について学習する。また、動画を鑑賞し、筋肉の触察の方法などを学び、活かせるようにする。具体的には、①運動学の基本を学ぶ。②筋や関節などの理解を深め、運動機能を理解すると共に、触察できるようになる。③正常な運動を学ぶことで、異常な運動とその度合いを理解できるようになる。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験（中間試験と期末試験）にて評価する。
- ・中間試験は、100点満点で評価する。
- ・中間試験が60点未満の者でも、試験後の課題を提出した場合、中間試験の点数を60点にする救済措置をとる。
- ・期末試験も、100点満点で評価する。
- ・全体の評価は100点満点（中間試験の点数40%と期末試験の点数60%の合計の点数）で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・教科書と資料を利用し、講義形式で行う。
- ・動画を鑑賞し、触診や筋の走行のイメージなどを学び・理解を深める。
- ・触診や検査法などの実技も行えたら行う。

## 【教科書・参考書】

- ・運動学 医歯薬出版株式会社

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション、運動学の目的、運動の表し方 p.1-8	
2	身体運動と力学① p.9-22	
3	身体運動と力学② p.9-22	
4	運動器の構造と機能 p.23-40	
5	神経の構造と機能 p.41-50	
6	運動感覚① p.51-56	
7	運動感覚②、反射と随意運動① p.51-68	
8	反射と随意運動② p.57-68	
9	四肢と体幹の運動(上肢帯の運動と筋肉) p.69-77	
10	四肢と体幹の運動(肩関節の運動と筋肉) p.78-86	
11	中間試験、試験解説、実技①	
12	四肢と体幹の運動(肘関節と前腕の運動と筋肉) p.87-94	
13	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉①) p.95-113	
14	四肢と体幹の運動(手関節と手の運動と筋肉②) p.95-113	
	期末試験	
15	試験解説、1学期のまとめ、実技②	
16	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉①) p.114-124	
17	四肢と体幹の運動(股関節の運動と筋肉②)、四肢と体幹の運動(膝関節の運動と筋肉①) p.114-130	
18	四肢と体幹の運動(膝関節の運動と筋肉②)、四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動と筋肉①) p.125-145	
19	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動と筋肉②) p.131-145	
20	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動と筋肉) p.146-150	
21	四肢と体幹の運動(頸椎の運動と筋肉) p.151-160	
22	中間試験、試験解説、実技③	
23	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動と筋肉) p.161-166	
24	四肢と体幹の運動(腰椎、仙椎、骨盤の運動と筋肉) p.167-172	
25	四肢と体幹の運動(顔面、頭部の運動と筋肉) p.173-177	
26	姿勢① p.177-189	
27	歩行① p.190-196	
28	歩行② p.197-203	
29	歩行③、運動発達 p.204-224	
	期末試験	
30	試験解説、1学期と2学期のまとめ、運動学習 p.225-230	

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期、2期	国田 朱子	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	病理学概論		2 単位 60 時間

<p>【授業の到達目標およびテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病理学は“見る”事により病気を理解する学問です。授業ではプリントを使って教科書の内容をできるだけわかりやすく講義します。</li> <li>・病気を理解する為には正常の体の理解が前提となりますので解剖学、生理学の知識も重要です。合わせて勉強して理解を深めましょう。</li> </ul>
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の理解に必要な用語の定義を理解する。(例:病理学とは?腫瘍とは?)</li> <li>・病気の理解に必要な用語の分類を理解する。</li> <li>・細胞レベルで病気を理解する。</li> </ul>
<p>【成績評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> </ul>
<p>【授業の特徴・形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式を基本とする。</li> </ul>
<p>【教科書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめの一歩の病理学 羊土社</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】			
回	講義内容		備考
1	病理学とは・疾病の一般	1～6 1. 病理学とは 2. 疾病の一般 A. 疾病の意義と分類	講義
2	疾病の一般・細胞傷害	7～12 2B. 症候の意義と分類 C. 疾病の経過、予後、転帰 3A. 細胞傷害の定義 B. 萎縮	講義
3	細胞傷害	12～17 C. 変性 D. 代謝障害と疾病	講義
4	細胞傷害	17～22 D. 代謝障害と疾病	講義
5	細胞傷害	23～27 E. 壊死 F. 死	講義
6	循環障害	29～33 A. 血液の循環障害 1. 充血 2. うっ血 3. 虚血	講義
7	循環障害	33～38 4. 出血 5. 血栓症	講義
8	循環障害	39～44 6. 塞栓症 7. 梗塞 B. リンパ液の循環障害	講義
9	循環障害	44～49 C. 脱水症 D. 高血圧症 A. 進行性病変の定義	講義
10	進行性病変と細胞・組織の適応	50～56 B. 肥大、過形成、C. 再生 D. 化生 E. 創傷治癒、組織内異物の処理	講義
11	進行性病変と細胞・組織の適応	57～62 F. 移植 A. 炎症の一般	講義
12	炎症	63～65 A. 炎症の一般	講義
13	炎症	66～70 B. 炎症の分類	講義
14	前半のまとめ		講義
15	試験解説		講義
16	免疫異常、アレルギー	71～74 7A. 免疫の仕組み	講義
17	免疫異常、アレルギー	75～80 7B. 免疫不全 7C. 自己免疫疾患	講義
18	免疫異常、アレルギー	81～84 7D. アレルギー	講義
19	腫瘍	85～90 8A. 腫瘍の概念 1. 腫瘍の定義 2. 肉眼的形態 3. 腫瘍細胞	講義
20	腫瘍	91～97 4. 腫瘍の組織構造 5. 腫瘍の発育諸段階 6. 生体への影響 7. 発癌の原因	講義
21	腫瘍	98～103 8. 癌の診断と治療 B. 腫瘍の分類 1. 良性腫瘍	講義
22	腫瘍	104～109 2. 悪性腫瘍	講義
23	腫瘍、先天性異常	110～114 3. 主要な癌 9A. 先天性異常：総論	講義
24	先天性異常	115～120 B. 奇形の原因	講義
25	先天性異常	121～126 C. 奇形成立の時期 D. 奇形の種類	講義
26	病因	127～132 10A. 病因の一般 B. 内因	講義
27	病因	133～140 C. 外因 1. 栄養障害 2. 物理的外因	講義
28	病因	141～150 3. 化学的外因 4. 生物学的外因	講義
29	後半のまとめ		講義
30	試験解説		講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期、2期	佐藤 卓弥	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	整形外科学		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・ 整形外科が対象とする感染症、外傷や障害（スポーツ含む）、腫瘍、変性疾患、代謝疾患、骨系統疾患など多岐にわたる運動器疾患について、疾患の概要や診断、治療についての臨床上に必要な基礎的知識を、全身あるいは部位別に習得する
- ・ 運動器系の構造と機能を理解する。
- ・ 整形外科的な診察・検査法や治療法を理解する。疾患の機序、病態や症状、診断、治療を理解する。

## 【講義概要】

- ・ 内容に則した資料を配布し、同内容をスライドで投影して解説する
- ・ 運動器の解説では骨格模型を用いて、解剖学的・運動学的な知見を動的に解説する

## 【成績評価方法】

- ・ 定期試験【100%】にて評価する
- ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする
- ・ 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する

## 【授業の特徴・形式】

- ・ 講義形式とする
- ・ 資料を配布し、同内容をスライドで投影して口頭で解説する

## 【教科書・参考書】

- ・ 整形外科学（改訂第4版）南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	運動器の基礎知識 p.3-14	講義
2	整形外科学診察法, 整形外科学検査法 p.15-40	講義
3	整形外科学的治療法 p.41-54	講義
4	骨・関節損傷総論 p.55-71	講義
5	スポーツ整形外科総論, リハビリテーション総論 p.73-83	講義
6	各論: 感染性疾患 p.85-88	講義
7	各論: 骨および軟部腫瘍 p.89-99	講義
8	各論: 非感染性軟部・骨関節疾患 p.99-114	講義
9	各論: 全身性の骨・軟部疾患 p.114-126	講義
10	各論: 骨端症, 四肢循環障害 p.126-135	講義
11	各論: 神経・筋疾患(神経麻痺と絞扼性神経障害, 腕神経叢損傷・分娩麻痺) p.136-142	講義
12	各論: 神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患, 脊髄腫瘍, 脊髄損傷) p.143-148	講義
13	各論(体幹): 頸部 p.149-158	講義
14	各論(体幹): 胸部 p.158-162	講義
15	各論(体幹): 腰部(1) p.162-169	講義
16	各論(体幹): 腰部(2) p.162-169	講義
17	各論: 肩関節・肩甲帯(1) p.170-187	講義
18	各論: 肩関節・肩甲帯(2) p.170-187	講義
19	各論: 上腕・肘関節(1) p.188-202	講義
20	各論: 上腕・肘関節(2) p.188-202	講義
21	各論: 前腕, 手関節 p.202-209	講義
22	各論: 手・手指 p.209-215	講義
23	各論: 骨盤・股関節(1) p.216-229	講義
24	各論: 骨盤・股関節(2) p.216-229	講義
25	各論: 大腿・膝関節(1) p.230-246	講義
26	各論: 大腿・膝関節(2) p.230-246	講義
27	各論: 下腿・足関節(1) p.246-255	講義
28	各論: 下腿・足関節(2) p.246-255	講義
29	各論: 足・足趾 p.255-264	講義
30	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第3期	佐藤 卓弥	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道整復術の適応		2 単位 30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- 一般臨床医学、外科学、整形外科で学んだ基礎医学の知識を復習することにより、柔道整復術の適応となるかを総合的に判断出来るようにすることを目標とする

## 【講義概要】

- 内容に則した資料を配布し、同内容をスライドで投映して解説する

## 【成績評価方法】

- 定期試験【100%】にて評価する
- 100点満点で評価し、60点以上で合格とする
- 単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する

## 【授業の特徴・形式】

- 講義形式とする
- 関連問題を配布して解答し、内容を解説する

## 【教科書・参考書】

- 医療の中の柔道整復 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	内臓疾患の投映を疑う疼痛	講義
2	腰痛を伴う疾患	講義
3	化膿性炎症, 軟部組織の圧迫損傷	講義
4	血流障害を伴う損傷	講義
5	末梢神経損傷を伴う損傷(1)	講義
6	末梢神経損傷を伴う損傷(2)	講義
7	脱臼骨折	講義
8	外出血を伴う損傷	講義
9	病的骨折および脱臼	講義
10	意識障害を伴う損傷(1)	講義
11	意識障害を伴う損傷(2)	講義
12	脊髄症状のある損傷	講義
13	呼吸運動障害を伴う損傷	講義
14	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
15	高エネルギー外傷	講義
16	まとめ	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期	吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復術の臨床判定	1 単位	30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師の施術を求めて来所する患者さんは外傷に起因する疼痛、その他の訴えがある。その中には非外傷性由来の疼痛・症状も含まれることがある。これらを適切に除外するだけでなく、柔道整復師としての特徴・限界を知り、症状や所見を厳密に判断して最適な治療環境が選択できることが重要である。講義では実際に皆が臨床現場で遭遇した際に必要な知識・情報を提供する。

## 【講義概要】

- ① 配布プリントの赤字だけを理解するのではなく、前後の文章が理解できるようにする。
- ② 必要に応じて適宜、ワークタイムを設ける
- ③ 柔道整復術の適否をできる基礎となる講義を行う。

## 【成績評価方法】

- ① 定期試験→70% 中間考査→30% 合計100%とし、60点以上を合格とする。
- ② 不合格者（60点未満）の者には補習受講し、再試験の受験により最終評価とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ① レジューメ（プリント）を配布し、キーワードを埋める形で進行する。
- ② パワーポイント中心に授業展開を行う。
- ③ 内科的疾患、授業でまだ講義していない単元も出てくるので、しっかりとイメージできるように行う。
- ④ 適宜、確認問題等の実施する。

## 【教科書・参考書】

全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	1章 柔道整復術の適否を考える(P.1～6)	講義
2	1章 柔道整復術の適否を考える～2章 損傷に類似した症状を示す疾患(P.7～13)	講義
3	2章 損傷に類似した症状を示す疾患(P.8～15)	講義
4	2章 損傷に類似した症状を示す疾患(P.16～21)	講義
5	3章 血流障害を伴う損傷(P.23～28)	講義
6	3章 血流障害を伴う損傷(P.29～35) 、小テスト	講義
7	3章 血流障害を伴う損傷(P.36)～5章 脱臼骨折～6章 外出血を伴う損傷(P.42)	講義
8	6章 外出血を伴う損傷(P.43～48)	講義
9	7章 病的骨折および脱臼(P.49)～8章 意識障害を伴う損傷(P.55)	講義
10	8章 意識障害を伴う損傷(P.56)～9章 脊髄症状のある損傷(P.63)	講義
11	9章 脊髄症状のある損傷(P.64)～10章 呼吸運動を伴う損傷(P.70)	講義
12	10章 呼吸運動を伴う損傷(P.71)～11章 内臓損傷の合併が疑われる損傷(P.75)	講義
13	11章 内臓損傷の合併が疑われる損傷(P.75)～12章 高エネルギー外傷(～P.81)	講義
14	総復習	講義
15	試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道②		1 単位 15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。

## 【講義概要】

武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

## 【成績評価方法】

評価項目：授業意欲、実技試験、（レポート）。  
評価割合：授業意欲、態度50%、実技試験50%の合計100%  
※出席回数（各学期にて2回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

## 【授業の特徴・形式】

柔道実技（礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形）

## 【教科書・参考書】

柔道（南江堂）

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	「投の形」の歴史とその意義	実技
2	「投の形」における手技（浮落、背負投、肩車）の理論と実践	実技
3	「投の形」における腰技（浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践	実技
4	「投の形」における足技（送足払、支釣込足、内股）の理論と実践	実技
5	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
6	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
7	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古	実技
8	「投の形」における（手技・腰技・足技）の理論と実践	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第1期、2期	◎瀧下晃洋 瀬谷智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技③		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

筋、骨、靭帯、関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。

## 【講義概要】

教科書に記載されている理論と臨床現場における処置等、理論に沿ってしっかりと技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。
- ・配布するプリントやPowerPointを用い実施する

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	ガイダンス	実技
2	橈骨近位端部骨折	実技
3	肘頭骨折	実技
4	橈骨骨幹部骨折	実技
5	ガレアジ骨折 (逆モンテギア骨折)	実技
6	前腕骨骨折 実技	実技
7	確認試験	実技
8	尺骨骨幹部骨折	実技
9	モンテギア骨折	実技
10	橈尺骨両骨幹部骨折	実技
11	橈骨遠位端部骨折 1	実技
12	橈骨遠位端部骨折 2	実技
13	橈骨遠位端部骨折 実技	実技
14	試験解説	実技
15	症例紹介	実技
16	ガイダンス	実技
17	手根骨骨折 1	実技
18	手根骨骨折 2	実技
19	中手骨骨折 1	実技
20	中手骨骨折 整復・固定実技	実技
21	講義内確認試験	実技
22	試験解説・指の解剖	実技
23	中手骨骨折 2	実技
24	基節骨骨折	実技
25	中節骨骨折	実技
26	末節骨骨折	実技
27	指骨骨折 実技	実技
28	指骨骨折 復習	実技
29	試験解説	実技
30	症例紹介	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第2期	◎大木正浩 荒井一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技④		1 単位 30 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b> 各疾患を理解することで、臨床において症状より傷病名を推測し、適切な検査を行い、鑑別ができるようにする。</p>
<p><b>【講義概要】</b> 接骨院で骨折・脱臼を治療する機会は減少しており、軟損疾患は臨床において患者の大多数を占める。そのため軟損は国試対策のみではなく臨床にも通ずる知識を押さえたい。ぜひ臨床で生かせるようしっかりと頭に叩き込んで欲しい。</p>
<p><b>【成績評価方法】</b> 学期末評価点は、期末テストを50%、毎回次の授業に行う小テストの合計点数を50%とする。 [小テスト] 出題範囲：前授業のレジュメにある空欄箇所より出題 問題数：前授業内容に準じる 出題形式：四択</p>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b> 授業範囲が広いので講義ペースは少し早く、情報量も多いかもしれないが、補足資料を載せたレジュメを中心に授業を効率良く進めていく。そのため、授業前は教科書の該当ページで予習し、授業当日には復習を行うことを勧める。国家試験に向けては、教科書を理解することが勉強の基本となるため、レジュメは教科書を基に作成してある。重要箇所を空欄にしてあり、授業は、解説とともに空欄に記入しながら進んでいく。 次の授業では、前回の授業内容を問う小テストを行うため、授業内容を復習することを勧める。小テストは、授業理解を問うだけでなく、出席評価の意味合いがあるため、しっかり出席してほしい。</p>
<p><b>【教科書・参考書】</b> 柔道整復学 理論編</p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	教科書P347～348、P380	実技
2	教科書P381～P383	実技
3	教科書P384～P386	実技
4	教科書P386	実技
5	教科書P387～P388	実技
6	教科書P388～P389	実技
7	教科書P389～P392	実技
8	教科書P392～P394	実技
9	教科書P394～P396	実技
10	教科書P396	実技
11	教科書P396～P399	実技
12	教科書P399～P404	実技
13	教科書P404～P406	実技
14	テスト前講義	実技
15	テスト解説	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午前
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期	◎大木正浩 荒井一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑤		1 単位 30 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b> 各疾患を理解することで、臨床において症状より傷病名を推測し、適切な検査を行い、鑑別ができるようにする。</p>
<p><b>【講義概要】</b> 接骨院で骨折・脱臼を治療する機会は減少しており、軟損疾患は臨床において患者の大多数を占める。そのため軟損は国試対策のみではなく臨床にも通ずる知識を押さえたい。ぜひ臨床で生かせるようしっかりと頭に叩き込んで欲しい。</p>
<p><b>【成績評価方法】</b> 学期末評価点は、期末テストを50%、毎回次の授業に行う小テストの合計点数を50%とする。 [小テスト] 出題範囲：前授業のレジュメにある空欄箇所より出題 問題数：前授業内容に準じる 出題形式：四択</p>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b> 授業範囲が広いので講義ペースは少し早く、情報量も多いかもしれないが、補足資料を載せたレジュメを中心に授業を効率良く進めていく。そのため、授業前は教科書の該当ページで予習し、授業当日には復習を行うことを勧める。国家試験に向けては、教科書を理解することが勉強の基本となるため、レジュメは教科書を基に作成してある。重要箇所を空欄にしてあり、授業は、解説とともに空欄に記入しながら進んでいく。 次の授業では、前回の授業内容を問う小テストを行うため、授業内容を復習することを勧める。小テストは、授業理解を問うだけでなく、出席評価の意味合いがあるため、しっかり出席してほしい。</p>
<p><b>【教科書・参考書】</b> 柔道整復学 理論編</p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	教科書P350～P351	実技
2	教科書P351～P353	実技
3	教科書P354～P358	実技
4	教科書P358～P360	実技
5	教科書P360～P362	実技
6	教科書P362～P366	実技
7	教科書P366～P368	実技
8	教科書P368～P372	実技
9	教科書P372～P377	実技
10	教科書P377～P379、P337～P339	実技
11	教科書P339～P341	実技
12	教科書P341～P342	実技
13	教科書P342～P347	実技
14	テスト前講義	実技
15	テスト解説	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期、2期	◎瀧下 晃洋 瀬谷智美	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑥		2 単位 60 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

筋、骨、靭帯、関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。

## 【講義概要】

教科書に記載されている理論と臨床現場における処置等、理論に沿ってしっかりと技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導する。

## 【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。
- ・配布するプリントやPowerPointを用い実施する

## 【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	ガイダンス	実技
2	骨盤骨骨折 1	実技
3	骨盤骨骨折 2	実技
4	大腿骨頸部骨折	実技
5	大腿骨近位部骨折	実技
6	松葉杖の使用法	実技
7	講義内確認試験	実技
8	大腿骨骨幹部骨折	実技
9	大腿骨遠位端部骨折	実技
10	膝蓋骨骨折	実技
11	下腿骨近位端骨折	実技
12	膝関節周囲の触診・徒手検査	実技
13	まとめ	実技
14	試験解説	実技
15	症例紹介	実技
16	ガイダンス	実技
17	下腿骨幹部骨折 1	実技
18	下腿骨幹部骨折 2	実技
19	下腿骨疲労骨折	実技
20	下腿骨骨幹部骨折の固定法	実技
21	講義内確認試験	実技
22	下腿遠位端部骨折 1	実技
23	下腿遠位端部骨折 2	実技
24	距骨骨折	実技
25	踵骨骨折	実技
26	その他足根骨骨折	実技
27	足趾骨骨折	実技
28	まとめ	実技
29	試験解説	実技
30	症例紹介	実技

## 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第2期	◎菊地 正 ○村越 嵩紀	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑦		2 単位 60 時間

<p>【授業の到達目標およびテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師として接骨院やスポーツ現場で必要な施術を実践的に学習し習得することを目的とする。</li> </ul>
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者やスポーツ選手等に必要な施術、コンディショニング、トレーニングのための専門的・発展的な知識を身に付け、実践できる。</li> </ul>
<p>【成績評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内実施の確認テスト</li> <li>・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。</li> </ul>
<p>【授業の特徴・形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p>【教科書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編（第7版）</li> <li>・配布プリント</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	オリエンテーション(授業の進め方・概要について)	実技
2	アスレティックトレーナーの役割	実技
3	トレーニング理論	実技
4	トレーニング演習	実技
5	トレーニング理論	実技
6	トレーニング演習	実技
7	スポーツマッサージ 基礎	実技
8	スポーツマッサージ 体幹	実技
9	スポーツマッサージ 下肢	実技
10	スポーツマッサージ 上肢	実技
11	テーピング概論	実技
12	テーピング応用(膝関節)	実技
13	テーピング応用(足関節)	実技
14	テーピング応用(膝関節)	実技
15	スポーツ内科学	実技
16	スポーツ内科学	実技
17	スポーツ心理学 基礎	実技
18	スポーツ心理学 基礎	実技
19	スポーツ心理学 演習	実技
20	スポーツ心理学 演習	実技
21	スポーツ栄養学 基礎	実技
22	スポーツ栄養学 基礎	実技
23	スポーツ栄養学 演習	実技
24	スポーツ栄養学 演習	実技
25	コーチング 基礎	実技
26	コーチング 基礎	実技
27	コーチング 応用	実技
28	コーチング 演習	実技
29	試験演習	実技
30	試験演習	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1・2期	◎村越 嵩紀 ○菊地 正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑧		2 単位 60 時間

<p>【授業の到達目標およびテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師として必要な施術を実践的に学習し習得することを目的とする。</li> </ul>
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床上にて特に携わることが多い軟部組織損傷の発生機序や症状、合併症などを理解し習得する。</li> <li>・臨床上にて特に携わることが多い軟部組織損傷のの診察、整復、固定、後療法を実践する。</li> </ul>
<p>【成績評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内試験(3回)の全平均にて評価する。</li> <li>・単位取得に満たない(不合格)生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p>【教科書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	下肢損傷のリハビリ時のストレッチ	実技
2	上肢損傷のリハビリ時のストレッチ	実技
3	下肢損傷のリハビリ時のストレッチ まとめ	実技
4	上肢損傷のリハビリ時のストレッチ まとめ	実技
5	講義内 試験演習	実技
6	講義内 試験演習	実技
7	下肢損傷のリハビリ時の手技療法	実技
8	下肢損傷のリハビリ時の手技療法	実技
9	上肢損傷のリハビリ時の手技療法	実技
10	上肢損傷のリハビリ時の手技療法	実技
11	下肢損傷のリハビリ時の手技療法 まとめ	実技
12	上肢損傷のリハビリ時の手技療法 まとめ	実技
13	講義内 試験演習	実技
14	講義内 試験演習	実技
15	下肢損傷時のPNF療法	実技
16	上肢損傷時のPNF療法	実技
17	下肢損傷時のPNF療法 まとめ	実技
18	上肢損傷時のPNF療法 まとめ	実技
19	講義内 試験演習	実技
20	講義内 試験演習	実技
21	下肢損傷時のテーピング療法	実技
22	下肢損傷時のテーピング療法	実技
23	上肢損傷時のテーピング療法	実技
24	上肢損傷時のテーピング療法	実技
25	下肢に対する関節矯正法	実技
26	上肢に対する関節矯正法	実技
27	姿勢調整法①	実技
28	姿勢調整法②	実技
29	下肢に対する筋調整法	実技
30	上肢に対する筋調整法	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	2年生 第2期	◎紺野直能 吉田晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講①		1 単位 30 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年第1期までに学習した柔道整復術の内容にて技術の臨床上必要な発展学習を目的とする。</li> </ul>
<p><b>【講義概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期にて学習した外傷施術を実践的に取り組む。</li> <li>・第1期にて学習した施術方法に類似した応用的施術を考察・検討する。</li> </ul>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験にて評価する。</li> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とす</li> <li>・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、100点満点で評価する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p><b>【教科書・参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復学 理論編 南江堂</li> <li>・柔道整復学 実技編 南江堂</li> </ul>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	肩関節脱臼	実技
2	肩関節脱臼	実技
3	肩関節脱臼	実技
4	肘関節脱臼	実技
5	肘関節脱臼	実技
6	肘関節脱臼	実技
7	鎖骨骨折	実技
8	鎖骨骨折	実技
9	鎖骨骨折	実技
10	肩鎖関節脱臼	実技
11	肩鎖関節脱臼	実技
12	肩鎖関節脱臼	実技
13	PIP関節背側脱臼	実技
14	PIP関節背側脱臼	実技
15	PIP関節背側脱臼	実技

## 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部・午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	◎瀧下 晃洋 菊地正 井口良平	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講②		2 単位 60 時間

<p><b>【授業の到達目標およびテーマ】</b> 調べ学習の一連の流れを通じて、情報収集能力や資料作成の手順、発表に際してのルールを身に着ける</p>
<p><b>【講義概要】</b> 論文や医学系書籍から高度な専門知識を習得する手法を理解させ、資料作成や発表に際しての手順やルールについても指導する</p>
<p><b>【成績評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。</li> <li>・出席率、授業態度及び提出資料で総合判定する。</li> <li>・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。</li> </ul>
<p><b>【授業の特徴・形式】</b> グループ内で選択したテーマについて書籍や文献を用いて調べ学習を行う パワーポイントやワード等の形式で内容をまとめ、作成資料に基づきクラス内で口頭発表を実施する</p>
<p><b>【教科書・参考書】</b> 各種専門書や医学論文 図書室内の書籍等を活用する</p>

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	ガイダンス	実技
2	演習 調べ学習 1	実技
3	演習 調べ学習 2	実技
4	演習 調べ学習 3	実技
5	演習 発表 1	実技
6	演習 発表 2	実技
7	演習 発表 3	実技
8	演習 学習まとめ	実技
9	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
10	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
11	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
12	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
13	指部の脱臼への施術	実技
14	指部の脱臼への施術	実技
15	指部の脱臼への施術	実技
16	指部の脱臼への施術	実技
17	膝部のテーピング技術	実技
18	膝部のテーピング技術	実技
19	膝部のテーピング技術	実技
20	膝部のテーピング技術	実技
21	足部のテーピング技術	実技
22	足部のテーピング技術	実技
23	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
24	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
25	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
26	上腕骨外科頸骨折への施術	実技
27	顎関節脱臼への施術	実技
28	顎関節脱臼への施術	実技
29	顎関節脱臼への施術	実技
30	顎関節脱臼への施術	実技
31	下腿骨の骨折への施術	実技
32	下腿骨の骨折への施術	実技

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 第3期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門分野	外傷の保存療法	1 単位	15 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

柔道整復術業務を理解し、患者来院から治癒もしくは施術の中止までの計画を組み立てられる様に学ぶ。そうして施術に至るまでの患者診察に関する留意点を十分に学び、患者に不利益を与えないように考えられる思考を身に付ける。

## 【講義概要】

柔道整復師の無血療法技術の素晴らしさと難しさを知り、生涯にわたり研鑽を重ね『ほねつぎ』柔道整復にかける精神を尊び、自己鍛錬に努め、地域医療の担い手として社会貢献していかなければならない。そのために柔道整復術の業務をしっかりと理解し、実践するための知識を身に付けなければならない。

## 【成績評価方法】

評価項目：授業意欲、試験。

評価割合：授業意欲、態度50%、試験50%の合計100%

## 【授業の特徴・形式】

レジュメ（プリント）を配布し、キーワードを埋めるスライドを中心に授業展開する。

## 【教科書・参考書】

柔道整復学・実技編

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復術	講義
2	損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無を判定する	講義
3	その他の治療法に関する情報の提示、説明と同意	講義
4	徒手整復、固定法、整復固定後の確認	講義
5	医科との連携、固定期間の検討	講義
6	後療法、治癒の判定	講義
7	注意事項、指導管理、予後	講義
8	痛みを訴える患者の診察をするときの考え方	講義

# 東京柔道整復専門学校(2024)

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年生)	昼間部：午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024年度	2年生 1・2期	澤田海彦	
講義区分	授業科目名		
基礎分野・専門分野	一般臨床医学①		2単位 60時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・ 患者の訴え・徴候・身体所見から患者の病状を理解できるようになるために、病歴の聴取方法、診察方法を習得し、得られた身体所見の表現法を身につける。
- ・ 柔道整復師として患者の健康状態を正しく理解し、治療できるようになるために、各臓器に起こる代表的な疾患の基礎的知識を習得する。

## 【講義概要】

1. 医療面接ができる。 2. 基本的な診察ができる。 3. 患者の診察所見を医学用語で記載できる。
4. 患者に見られた病的な身体所見の病態を説明できる。
5. 各臓器に起こる代表的な疾患の5-1. 原因を列挙することができる。5-2. 病態を述べることができる。
- 5-3. 徴候を列挙することができる。

## 【成績評価方法】

- ・ 定期試験にて評価する。
- ・ 評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・ 単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査
- ・ 具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・ 出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・ 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・ 講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

【使用教科書】『一般臨床医学 改訂第3版』 全国柔道整復学校協会編 (医歯薬出版)

「生理学 改訂第4版」

「診察と手技がみえる」

メディクメディア

「病気が見える 1～8」

メディクメディア

【 講義の内容・日程 】

回	実施日	講義内容	備考
1	4/10 水	1 診察概論・各論 A. 医療面接 B 視診:1. 意義と方法 2. 体格・体型 3. 体位・姿勢	講義
2	4/17 水	2 B 視診: 4. 栄養状態 5. 精神状態 6.異常運動 7. 歩行	講義
3	4/24 水	3 B 視診 8.皮膚 9頭部、顔面 10.頸部、	講義
4	5/8 水	4 B 視診: 11.胸部 12.腹部 13.背部、腰部 14.四肢	講義
5	5/15 水	5 C&D. 打診 &聴診	講義
6	5/22 水	6 E. 触診	講義
7	5/29 水	7 F. 生命徴候	講義
8	6/5 水	8 G&H. 感覚検査 & 反射検査	講義
9	6/19 水	9 I 代表的な臨床症状	講義
10	6/19 水	10 3.検査法	講義
11	6/26 水	11 A. 呼吸器疾患(1)	講義
12	7/3 水	12 A. 呼吸器疾患(2)	講義
13	7/10 水	13 A. 呼吸器疾患 (3)	講義
14	7/17 水	14 総まとめ	講義
15	7/31 水	15 定期試験解説	講義
16	8/28 水	16 B. 循環器疾患(1)	講義
17	9/4 水	17 B. 循環器疾患(2)	講義
18	9/11 水	18 B. 循環器疾患(3)	講義
19	9/18 水	19 C. 消化器疾患(1)	講義
20	9/25 水	20 C. 消化器疾患(2)	講義
21	10/2 水	21 C. 消化器疾患(3)	講義
22	10/9 水	22 C. 消化器疾患(4)	講義
23	10/16 水	23 D 代謝疾患(1)	講義
24	10/23 水	24 D 代謝疾患(2)	講義
25	10/30 水	25 E 内分泌疾患(1)	講義
26	11/6 水	26 E 内分泌疾患(2)	講義
27	11/13 水	27 F 血液・造血器疾患(1)	講義
28	11/20 水	28 F 血液・造血器疾患(2)	講義
29	11/27 水	29 F 血液・造血器疾患 (3)	講義
30	12/11 水	30 定期試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部:午後
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期		
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	一般臨床医学②		1 単位 30 時間

## 【授業の到達目標およびテーマ】

- ・患者の訴え・徴候・身体所見から患者の病状を理解できるようになるために、病歴の聴取方法、診察方法を習得し、得られた身体所見の表現法を身につける。
- ・柔道整復師として患者の健康状態を正しく理解し、治療できるようになるために、各臓器に起こる代表的な疾患の基礎的知識を習得する。

## 【講義概要】

1. 医療面接ができる。
2. 基本的な診察ができる。
3. 患者の診察所見を医学用語で記載できる。
4. 患者に見られた病的な身体所見の病態を説明できる。
5. 各臓器に起こる代表的な疾患の5-1. 原因を列挙することができる。5-2. 病態を述べることができる。5-3. 徴候を列挙することができる。

## 【成績評価方法】

- ・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

## 【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

## 【教科書・参考書】

【使用教科書】『一般臨床医学 改訂第3版』 全国柔道整復学校協会編 (医歯薬出版)

「生理学 改訂第4版」

「診察と手技がみえる」 メディクメディア

「病気が見える 1 ～8」 メディクメディア

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	G 腎・尿路疾患 (1)	講義
2	G 腎・尿路疾患 (2)	講義
3	G 腎・尿路疾患 (3)	講義
4	H 神経疾患 (1)	講義
5	H 神経疾患 (2)	講義
6	H 神経疾患 (3)	講義
7	I 感染症 (1)	講義
8	I 感染症 (2)	講義
9	J リウマチ・膠原病・アレルギー(1)	講義
10	J リウマチ・膠原病・アレルギー (2)	講義
11	総まとめ①	講義
12	総まとめ②	講義
13	総まとめ③	講義
14	総まとめ④	講義
15	定期試験解説	講義
16	定期試験解説	講義

# 東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2024 年度	2年生 第1・2・3期	◎荒井一彦、吉田晋、紺野直能、井口良平、菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習(2年生)		2 単位 90 時間

<p>【授業の到達目標およびテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。</li> </ul>
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A単位；学校附属臨床実習施設以外での学校指定臨床実習施設にて実践的施術を体験をする。</li> <li>・B単位；スポーツ現場などでの救護活動を通じて柔道整復師としての施術を習得する。</li> <li>・3年生時に行う学校附属臨床実習施設での最終臨床実習への足掛かりとし、将来につながる技術の研鑽に努める。</li> </ul>
<p>【成績評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。</li> <li>・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、まとめる。</li> </ul>
<p>【授業の特徴・形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技形式を基本とする。</li> </ul>
<p>【教科書・参考書】</p>

【 講義の内容・日程 】				
回	実施日	講義内容	備考	
1	臨床実習 方法	・各臨床実習施設毎にて実施する。		
2		・5時間18日を基本とする。		
3		・各臨床実習施設の事情を踏まえた時間配分を可能とし、合計90時間となれば可とする。		
4	A単位	附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設で実施 ▶附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設の条件 ・臨床実習における到達目標が設定されており、これに沿って実習ができること。 ・施術所は5年以上の開業実績があること。 ・教員の資格を有する柔道整復師、又は5年以上実務に従事した後に厚生労働省の定める基準に合った「柔道整復師臨床実習指導者講習会」を修了した柔道整復師である臨床実習指導者が配置されていること。 ・過去1年間の施術日の平均受診者数が20名以上であること。 ・臨床実習の実施に関し必要な施設及び設備を利用することができること。		
5	1単位			
6	60時間			
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13	B単位		スポーツ大会などの救護活動 ▶活動の種類 フットサル大会救護 バスケット大会救護 八丈島老人機能訓練 練馬少年野球救護 障がい者スポーツ救護 練馬区柔道救護 練馬区柔道大会救護 埼玉県柔道大会救護 練馬わんぱく相撲	
14	1単位			
15	30時間			
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				